

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

様式1（小・中）

1 前年度 評価結果の概要	・学校評価は他校でも一斉にされていると思うので、例えば市内平均の値と比較できると分析結果が分かりやすいはず。可能であれば次回、比較したい。比較すれば、武雄北中の特色が見えてくる。 ・次年度の課題は ①個別最適な指導についての授業の改善 ②生徒に寄り添った心の教育の推進 ③生徒が夢や目標が持てるような教育活動の充実であると考えられる。
------------------	--

2 学校教育目標	「志をもちゆめ実現を目指す人」「自ら学びを求める人」「心身ともに健康な人」
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	信頼関係を根幹とした教育実践 お互いを認め・受容し、一人ひとりの自己有用感を高める 誰一人取り残さない教育の推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ・家庭学習の定着を目指した取り組みの実践	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のため、ICTを活用したり他者とかかわる活動を仕組んだりしたと回答した教員が80%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、「家庭学習大作戦に積極的に取り組むことができた」と肯定的に答えた生徒60%以上。	A	・本校では国の指定を受け、ICTを活用した授業を行っている。家庭での利用は進んでいないことがわかった。今後、ICTの授業と宿題の関連について校内で検討する必要がある。担任は家庭学習の呼びかけをしているが、なぜ必要なのか周知する。 ・他者と関わり学びを深める授業が実践できている。少なくとも生徒は授業に満足しているようだが、保護者はそれが成績につながっているとは思っていないのではないかと。	A	・「個別最適な学び」のために、ICT機器を効果的に活用した。生徒のタイピングなどの情報活用スキルも向上している。「協働的な学び」については、全ての教科において話し合いや学び合などの、生徒が協働的に関わり合う活動を仕組み、実施することができた。 ・授業中の理解度がテストの点数に結びついていない生徒がいることが考えられるので、家庭学習の徹底が次年度の課題として挙げられる。	A	・授業の理解度と点数が必ずしも結び付かず、予習・復習や塾の利用が重要視される。授業参観では、英語のグループ学習など協働的な学びが力になっている。ICT活用では、検索結果が似た情報に偏るため、正しい情報の活用方法を学ぶ必要がある。AIの適切な活用も求められる。ICTを通じた情報・意見交換の機会が増え、学習の幅が広がることが期待される。	学力向上担当 教務主任 研究主任	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒75%以上。	・意見を出し合える雰囲気づくりに努め、授業の中で意見を交流する時間を設ける。 ・学級通信の中で、道徳の取り組みを紹介する。	A	・週に1回、各学年の担任が工夫を凝らした道徳の授業を行っている。保護者の29.1%がわからないと回答していることから、授業の様子が十分に伝わっていないことがわかった。	B	・各学年の担任は、意見交流の場を設定し、授業の工夫を行っている。後期は、ふれあい道徳の授業参観も実施した。「道徳の授業を受けて、自分の考えが深まったり変わったりしている」と回答した生徒91.9%に対し、保護者43.2%であった。保護者に道徳の授業の様子が十分に伝わっていない。保護者に向け学級・学年通信等で道徳の授業の様子を伝える必要がある。	B	・まずは家庭での関わりが重要。忙しくても積極的に話を聞いてほしい。道徳の必要性は親世代には理解が難しい面もあるが、親子で学びを深める機会にすべき。授業参観を増やし、保護者と考える場を設けるのも有効。生徒の人生観につながる学びになるように期待。保護者への情報提供が不足しているのでメール活用や評価方法の見直しも検討すべき。	道徳教育 担当教員
	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取り組みの充実	○気になる生徒や変化のあった生徒について、職員間での情報共有を確実に行う。生徒指導に関わる対応について、共通理解が図られていると回答した教員が100%。	B	・週1回の会議で管理職や学年主任、教育相談担当者と情報共有をしている。毎日の健康観察で、生徒が相談したいことを書き込む欄を設けている。生徒や保護者が相談しやすい体制を作るにはどうしたらよいか検討する必要がある。	B	・共通理解が図られていると回答した教員は100%であった。 ・週1回の会議で管理職や学年主任、教育相談担当者と情報共有をしている。毎日の健康観察で、生徒が相談したいことを書き込む欄を設けている。生徒や保護者に相談できる体制が整っていることを伝えられるように工夫していきたい。	B	学校の体制は素晴らしい。保護者の理解も得られるはず。思春期の中学生は日々揺れ動いており、生徒や保護者との情報交換が重要。いじめの早期対応も適切に行われていると考えられる。	生徒指導 教育相談
●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒70%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上。	・日々の学校生活の中で、小さなことでもよいことがあれば、クラスや校内で認め、自信につながる機会をつくるよう工夫する。 ・総合的な学習や学活や行事で、将来の夢や目標について考えたり、話しかけたりする機会を増やす。	B	・教員が生徒の良いところを承認する場面は昨年よりも増えている。地域の方からお褒めの電話などがあつたときには全校放送をしている。保護者にも知らせたい。 ・授業を担当する教員は学活等で将来の夢や目標につながる授業を行っている。3年生は全員が高校進学を希望し志望校を決めている。他学年ではまだ志望校までは決まっていない生徒は多い。夢や目標を大きく捉えすぎたり、家庭で話されていないかったりするのではないかと。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」について肯定的な回答をした生徒は90.8%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒77.0%で前期より10%以上アップした。 ・3年生は、進路に関する授業や3者面談を通して、将来の夢に向かって具体的な志望校が決まり努力している。また、1、2年生は職業調べや職場体験を通して、将来のことを身近な人と話し少しずつ将来について考える機会になったことが、結果に表れたと考える。	A	・目標が持てるようになった生徒が増えたことは評価できる。多くの子どもが先生を信頼し、将来を考える大切な時期を迎えている。地域も温かく見守り、職場体験や社会活動を通じて視野を広げてほしい。先生と生徒の信頼関係も強く、頼もしい。新しい発想や挑戦の機会を増やし、税金・選挙・政治など社会の仕組みについても学ぶ場があるとよい。	特別活動 総合的な学習の 時間
●健康・体づくり		○不登校・教室に入れない生徒、学校が楽しくない生徒に寄り添う教育活動	○「学校の中で楽しく過ごしている」と回答した生徒85%以上。	B	・適宜ケース会議を行い、SSW等専門職を活用しながら個々に応じた対応を行っている。生徒と保護者の回答が100%に近づくように努力していきたい。	B	・「学校の中で不安なく過ごしている」について肯定的な回答した生徒は前期85%から後期79.3%であった。 ・ケース会議や関連機関との連携を図りながら、安心・安全な環境づくりに取り組んでいる。学校の中で不安なく過ごしていると回答した生徒が減少していることに危機感をもち、早急に対策を取りたい。	B	・中学生の不安を理解し、SOSには慎重に対応してほしい。相談できる先生の存在が重要。不登校の解決は簡単ではないが、継続的な声掛けが今後必要。	教頭 教育相談
	●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上。 ②交通ルールを守って登下校していると回答した生徒が80%以上。 ⑤「自身の健康観を行っている」「健康のために生活の中で意識していることがある」と答えた生徒80%以上。	B	・部活動は充実して活動できている。徒歩や自転車での自力登校をがんばっている生徒もいる。送迎の生徒は420分以上運動やスポーツに取り組めていないのかもかもしれない。 ・下校指導など全職員で交通安全についての指導を行っている。登下校時に並進など危険な乗り方についての指摘があったことから、今後の指導を工夫していきたい。 ・掲示教育や保健指導、健康観察により、健康意識は生徒たちの中には確実に根付いていると感じている。行動は健康に対して危機感を持った時に変容するものであり、その際に正しい変容ができる通念を身につけさせていく。	B	・運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒78.0%であった。 ・「交通ルールを守って登下校している」について肯定的に回答した生徒は97.7%であった。全職員が自発的に下校指導に取り組んでいる。交通安全については、継続して指導していくことが必要であるため、今後はさらに職員間での連携を強めて指導にあたりたい。 ・健康のためにタブレットで健康観観を行っているが、入力状況は4割程度であるため、自分自身で健康観観をする大切さを継続して指導する必要がある。	B	・自転車通学の整列や教員の下校指導には感謝したい。中学生が自身の健康を把握する習慣を身につけることは重要であり、健康観観の入り方を望む。スポーツを生活に取り入れ、リフレッシュや学びにつなげてほしい。水泳の安全確保や食育の視点からの健康意識向上にも期待したい。	体育主任 食育担当 生徒指導
		○望ましい生活習慣の形成	○学習や運動に計画的に取り組むとともに、余暇を有効活用しながら生活リズムを整え、十分な睡眠を確保できていると答えた生徒70%以上。	・学期末に健康観観のフィードバックを行う ・生活リズムチェックの実施(保健委員会) ・生活アンケートをもとに、生活習慣についての見直しを行う。 ・フォーサイトの活用	B	・学校では規則正しく生活しているも、携帯やタブレットなどの動画視聴やSNSの使用が家庭での生活リズムに影響を与えているのではないかと考える。後期に情報教育の集会やアンケートを計画している。	B	・計画的であると考え。睡眠の確保については、睡眠の重要性を保健便りや掲示物等で啓発していきたい。	B	・小・中学生のタブレットや携帯の所持率が高く、使用状況の把握や適切な利用が求められる。保護者の責任や知識向上も重要。生徒・保護者双方に、睡眠の大切さについて十分な啓発を行うべき。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守を目指し、県費職員の時間外在校時間平均が45時間を超えない。	A	・業務の見える化(リマインドボード、職員会議資料、業務フローチャート)促進。 ・業務改善アンケート年に2回実施。	A	・2月までの集計では、県費職員の時間外在校時間平均がどの月も45時間を超えていない。時間外在滞時間が多い月は、5月と10月でその月には体育大会や文化祭などの大きな行事があった。計画的に業務分担や計画をしていきたい。	A	・教員の仕事の大変さを理解し、夜遅くまでの業務が心配される。教員自身のセルフケアも大切に、無理せず大切にされてほしい。計画的に仕事を進めている様子がうかがえるが、地域行事との連携も重視してほしい。	教頭	
●特別支援教育の充実	・支援が必要な生徒に寄り添える支援体制の充実	・支援が必要な生徒の共通理解と支援方法の共有ができていると思う職員が80%以上。	A	・月一回の生徒指導協議会や週1回の会議で管理職や学年主任、特別支援コーディネーターと情報共有をしている。 ・適宜ケース会議を行い支援方法を検討している。家庭訪問も頻繁に行い、保護者と協力して特別支援教育を行っている。	A	・週1回の運営委員会、月1回の生徒連絡協議会で生徒の状況についての情報共有を行った。生徒や保護者に相談できる体制が整っていることを伝えられるように工夫していきたい。	A	・学校で解決が難しい場合は、NPOや民間団体、市の担当と連携することが重要。子どもが安心して自分を出せる環境が理想的。生徒や保護者との情報交換もできしており、良い関係が築かれている。	特別支援 コーディネーター	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒の自主的な活動の充実	○夢プロジェクトの推進	○武雄北中の一員として、「地域・社会貢献」を考えた「夢プロジェクト」に意欲的に取り組んだと回答した生徒70%以上。	・夢プロジェクト発進式の実施 ・生徒全員で「地域・社会貢献」を考えた夢プロジェクトや生徒会活動に取り組む。	B	・保護者の24.5%がわからないと回答している。学校が学校だよりやメールなどで夢プロジェクト活動の内容を知らせる必要がある。	A	・夢プロジェクトの取り組みについて、文化発表会で紹介したことで保護者や地域の方に内容を知ってもらえる機会となった。今後も生徒会の委員会を中心に全校生徒で取り組めるような活動を継続し、活動状況を発信する必要がある。	A	・文化祭は生徒の活動を理解する良い機会となった。生徒全体が一つの目標に向かい、主体的に企画・運営する貴重な経験にしたい。地域からの協力も可能で、ぜひ継続を望む。内容を積極的に発信し、周知を図ることが大切。	生徒会

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・学力向上や心の教育や健康・体づくりは全職員が改善点を共有し、問題解決するための手立てを「継続と徹底」していくことを意識して実施する。 ・保護者や地域の方に生徒ががんばっていることや学校が熱心に取り組んでいることをアピールするにはどんな方法があるか対策を考える。 ・働き方改革のために学校の行事をコンパクトに、業務の負担を最小限にしたいと考えている。しかし、学校行事や育友会行事、地域行事がコロナ前と同じぐらいに復活してきている。地域・保護者・生徒のニーズを把握し、精選することが大切だと考える。
--------------------	--